B. 後天性角化症/a. 炎症性角化症

15

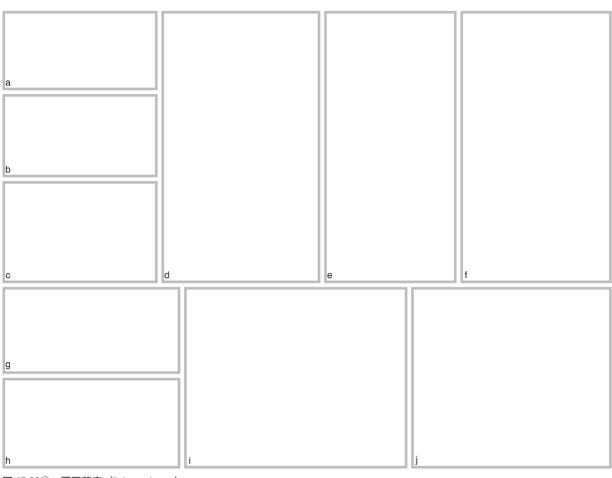


図 15.33② 扁平苔癬 (lichen planus)

多彩な臨床像. a, b:環状扁平苔癬. 汗孔角化症との鑑別が重要. 周囲に紅斑を認めるのが特徴的. c:色素性扁平苔癬. d:下肢に生じた典 型例. e:硬化性苔癬との鑑別が重要. f:包皮, 亀頭に多発している. g, h:口唇. i:大臼歯近くの頬粘膜部に形成された白色線条. j:手 首に生じた典型例.

ら診断する。また薬剤や歯科金属が原因かどうか、薬剤摂取歴 や職業歴、歯科治療歴を聴取する、必要に応じてパッチテスト などを行う.

### 治療・予後

慢性の経過をたどる.薬剤などの原因を検索して中止する. 薬剤性では中止後も皮疹が遷延することが多い、タクロリムス 外用. ステロイド外用などを行う. 口腔や口唇粘膜では. びら んから有棘細胞癌を生じることがある.

# 5. 線状苔癬 lichen striatus

## 症状・病因

小児に好発する. 主に片側四肢の Blaschko 線に沿い、線状

扁平毛孔性苔癬 (lichen planopilaris)

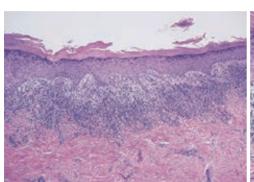
慢性 GVHD と扁平苔癬

MEMO

MEMO



図 15.34 扁平苔癬でみられる爪変形萎縮性の変形がみられる.



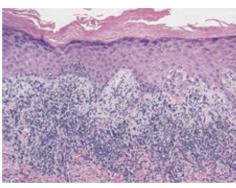


図 15.35 扁平苔癬の病理 組織像

不全角化を伴わない過角 化. 表皮の鋸歯状の延長, 真皮上層に帯状のリンパ 球浸潤, 基底層の液状変 性をみる.

に配列する皮疹(図15.36).最初は淡紅色~暗紅色で2~4mm径の丘疹が数個生じ、それが多発融合して線状あるいは帯状の皮疹となる.幅は1~2cm程度.自覚症状は通常ない.病因は不明.病理組織学的に湿疹性の非特異的炎症所見を示す.

### 鑑別診断・治療・予後

疣贅状表皮母斑,色素失調症(第2期),扁平疣贅,線状扁平苔癬などを鑑別する.本症の多くは数か月で自然消退する. ステロイド外用薬にも反応する.

### 6. 光沢苔癬 lichen nitidus

#### 症状・病因

若年者に好発.表面が平滑で光沢のある,大きさのそろった直径  $1\sim 2\,\mathrm{mm}$  大の小丘疹が,散在ないし集簇する(図 15.37).皮疹の融合や紅斑を伴わず,色調は正常皮膚色~黄白色を呈する.瘙痒などの自覚症状を伴わない.下腹部や四肢屈側,陰茎に生じやすい.約 50%の症例で Köbner 現象が観察される.

図 15.36① 線状苔癬 (lichen striatus)